

くすりのしおり

内服剤

2022年12月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：カバサル錠 1.0mg [パーキンソン病]

主成分：カベルゴリン (Cabergoline)

剤形：白色の割線入りの錠剤、長径 7.4mm、短径 3.8mm、厚さ 2.8mm

シート記載など：CABASER 1.0mg、カバサル 1mg、社マーク、Pfizer、カバサル 1.0mg、カベルゴリン、701



この薬の作用と効果について

ドパミン D₂ 受容体を刺激し、手のふるえや筋肉のこわばりや動作がおそくなったりするのを改善します。通常、パーキンソン病の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限およびこれらに伴う狭窄などの心臓弁膜の病変またはその既往歴がある。妊娠中毒症、産褥期高血圧がある。胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留、後腹膜線維症またはその既往歴がある。消化性潰瘍や消化管出血またはその既往歴がある。レイノー病がある。精神病またはその既往歴、低血圧症、心血管障害またはその既往歴がある。下垂体腫瘍が進展し視力障害などがある。肝機能障害またはその既往がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、成人は1回主成分として0.25mgを1日1回から服用を始め、2週目には1日1回0.5mgとし、経過を観察しながら、1週間ごとに1日量として0.5mgずつ増やし、維持量が定められます。最高用量は1日3錠（3mg）です。いずれの場合も1日1回朝食後に服用します。本剤は1錠中に主成分1.0mgを含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気づいた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次に飲む時間（翌朝）が近いときは、1回とばして、翌日の朝食後に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。吐き気、嘔吐、胃部不快感、幻覚（実際には存在しないものを存在するかのよう感じる）、妄想（根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない）、頭重感、めまい、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。急激な減量または服用中止により、高熱、手足のふるえ、体のこわばり、無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛などがあらわれることがあります。

生活上の注意

- ・急に眠くなったり、血圧の低下により立ちくらみなどを起こすことがありますので、車の運転、機械の操作、高いところでの作業などの危険を伴う作業は避けてください。
- ・心臓弁膜症があらわれることがあります。息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加、動悸などの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・この薬を使用する前に心エコー検査などにより、心臓弁膜症の有無が確認されます。使用開始後、3～6ヵ月以内に、その後も6～12ヵ月ごとに心エコー検査が行われます。また、定期的に聴診などの身体所見、胸部X線、CTなどの検査が行われます。
- ・妊娠を希望する場合には、妊娠を早期に確認するために定期的に検査を行ってください。
- ・妊娠を望まない女性の方は避妊をしてください。
- ・この薬を長期間服用する場合は、定期的に一般的な婦人科の検査が行われます。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、胃部不快感、食欲不振、幻覚などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・実際には存在しないものを存在するかのよう感じる、根拠が無いのにあり得ないことを考えてしまう、気を失う【幻覚、妄想、失神、せん妄、錯乱】

- ・高熱、意識障害、筋肉のこわばり [悪性症候群]
- ・発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・胸が痛い、むくみ、呼吸困難 [胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留]
- ・息苦しい・息切れ、むくみ、動悸 [心臓弁膜症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・[ご家族の方へ]患者さんに衝動制御障害（病的な賭博、病的な性欲亢進、過剰で無計画な買い物、暴食などの衝動的な行動を起こすこと）があらわれることがありますので、患者さんの言動に注意していただき、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。